

JAL 愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F 愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526



2017. 11. 30 職場新聞「ケーブル」2000号レセプション於て

私も

応援 します

私は休めない

今年を、JAL 争議と安倍政権の「終わりの始まり」の年にしたいから

支える会世話人 滝澤 哲也

7年目の大晦日が来ようとしていた12月20日に、2017年最後のJAL争議団の宣伝行動を市駅前で行った。いつになく参加者は大勢だった。チラシを手渡す動きも素早かった。社会を支える働く者が夢も希望も持てず、不安だらけの国に未来はないと、参加者は偽りの議席で暴走する安倍政治に怒っていた。JAL争議団は「雇用破壊は社会をダメにする」「解雇の自由化反対、解雇の金銭解決は絶対に許せない」と訴え続けてきた。

2015年に最高裁は、不当解雇撤回訴訟の上告棄却・不受理を決定した。しかしJAL争議団は、我々

の闘いは「人権と雇用を守らせる闘いであり、空の安全を守る闘いでもある」と、裁判で負けても決して諦めなかった。自主解決の闘いに立ちあがったのだ。争議団は苦しいなかで成長した。支援者も成長した。国内でも、世界でも知られる闘いとなった。

愛媛の争議団はこつこつ活動し続け、市民運動にも積極的に根を張ってきた。他団体の活動にも、我がことのように取り組む姿には定評がある。ある解雇撤回裁判を闘う労働者の激励集会に参加した際、JAL争議団の林さんが「原告は孤独です。24時間が闘いです。

皆さんとは違って緊張の連続なのです。こうした原告を支えるのは、ここに参加している皆さんです！」と訴えていたことを思いだす。24時間が闘いで緊張の連続の争議団を、支援者として「いかに支えるか」「いかに支援の輪を広げるか」が今年の課題である。

私は休めない。

今年をJAL争議と安倍政権の「終わりの始まり」の年にしたいから。

今年こそ

決着をつけて、あの空へ帰りたい

西予市在住
大池ひとみ

新年あけましておめでとうございます。変わらぬご支援いつもありがとうございます。

新しい年を迎えて、あれからもう1年経ってしまったのかと月日の速さに驚いています。2017年初頭、今年こそ解決したい、やれることはなんでもやると息巻いていたのに……。

昨年末、2年ぶりに添乗の仕事が入り、新年は海外で迎えました。お正月を海外で迎えることは慣れつつになっていましたし、汗をかきながら、お客様のためにあちこ

ち走り回っている姿を自分で俯瞰して、思わず苦笑い。やっぱり、私はこういう仕事が好きなんだ、なんとか1日も早く現場に戻りたい。添乗員という仕事も嫌いではありませんが、やっぱり、私は機内で働いているときが一番幸せなんだと痛感しました。

『♪たった一枚の紙切れで』『「ケーブル」2000号記念レセプションが松山市内で開かれまして。待機に変えられてしまったあの屈た。(裏面に続く)』

昨年11月にNTTの職場新聞

